

人間総合科学大学鍼灸医療専門学校

稲 鍼 会 会 報

平成 21 年度発行



「新」生に期待



霜寒の候、稲鍼会の皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので本年も残り僅かとなってしまいました。今年もいろいろなことがありました。昨年からの不況風がまだ席卷しており、庶民は生活の基盤を立て直すのに悪戦苦闘している現状です。

今年の注目すべき最大の出来事と言えば、今年の漢字にも選ばれた「新」を象徴する政権交代でしょうか。永きに亘った自民党政権下の政治が断末魔の叫びを残して終焉を迎え、2009年1月に誕生したアメリカのオバマ政権に続き、日本でも9月に国民の大いなる期待を受けて若い民主党政権が誕生しました。

誕生した時は大変革を国民は期待したのですが、時が経つにつれその勢いが褪せたようにも思われます。相変わらず巷にはデフレ不況、就職難など問題が山積です。

それは昨年来のリーマンショックによる不況のみならず、ここ数年来の産業の空洞化に起因している面も大いにあるのです。つまり、日本企業が目先の利潤を追求するあまり日本国内で製品の生産をせず、人件費や材料費の安い海外の後進国に工場を移し生産しているからなのです。そのため日本国内に利益を還元せず、かつ雇用が創出されないために景気をさらに後退させているのです。貴重な日本の技術や資本が海外に流出し、享受した後進国が隆盛を極めているのです。中国、東南アジア諸国、中東、アフリカ諸国は目覚ましいものがあります。それらの国には資源があります。しかし日本には資源がありません。では、どうすれば日本の再興ができるのでしょうか。

それにはまず、日本を将来背負ってゆく若者の育成が必要でしょう。若者が夢を持てる社会を創ってゆくことが大人たちに課せられた重要な課題なのです。若者は将来何になりたいかを考え、それに向かってベストを尽くしている時が一番輝いています。それには自分が決定した夢が実現する社会が現にあることが必要なのです。

アメリカでも、銀行証券不沈神話が崩れました。単に利益を追求するのみでは若者は育ちません。日本は技術立国です。単に人件費や材料費が安いのみで技術を流出させず、日本国内で「made in Japan」を胸張って創ればいいのです。盲目的に舶来品に平伏せず、優秀な国産品に自信を持っていいのです。そうして国内の企業が活性化すれば雇用も創出でき、若者も自己鍛錬に励むことでしょう。このように大人が手本を示さなければ若者は育ちません。ぜひ新政権もそのような価値判断を持って仕訳等の政治運営をしてもらいたいものです。

本学も、本年度より早稲田医療専門学校から人間総合科学大学鍼灸医療専門学校と変革し、大学卒業資格取得も可能とする時代に即応した新たな出発をしました。それはこれから求められる医療人を育てるための布石でもあるのです。稲鍼会も彼らが活躍できる環境づくりに積極的に貢献していきたいと思っております。

ところで、私事で出来事といえば、3月に業務研修でイタリアを訪問した時に、幸運にもミラノ市にあるサンタ・マリア・デレ・グラッチェ教会で、予約がなければ不可の貴重なレオナルド・ダビンチの『最後の晚餐』を鑑賞できたことです。予約していないにもかかわらず、教会の外側を見るだけのつもりで出かけた私たちに、教会の前で偶然キャンセ

ルがあつた日本人の観光客が予約券を原価で譲ってくれたのです。『最後の晚餐』を見た時の感動は筆舌に尽くしがたいものがありました。人との出会いとは不思議なものですね。

皆さんも命の洗濯に、仕事や日々の喧騒から離れて、ちょっと出かけてみてはいかがでしょうか。

2009 年 12 月吉日



サンタ・マリア・デ・グラチア教会にて、H21.3.1

【名誉会長挨拶】

稲鍼会名誉会長 久住 眞理



昼間は暖かく、朝晩の冷え込みが強く感じられ、先日仕事に向かう途中で霜が降りていました。サクサクした感触を楽しみながら、本格的な冬の到来を体感いたしました。全国の先生方におかれましては、お元気でいらっしゃいますでしょうか。

今年は政権が自民党から民主党に変わり、「事業仕分け」が国民に完全公開され注目を集めました。いろいろな職種の人達が多角的に一つの事業について意見を交わしていました。

我々が人間を理解しようとするときにも、一つの方向からだけではなく、多角的な視点を持つことが重要なのではないのでしょうか。我々、はり師・きゅう師は「心身一如」の概念を大切にしており、心身の健康を維持することによって、患者さんの人生をより良いものとして手助けができる素晴らしい職業だと思っています。

本校においては、本年度より校名が「早稲田医療専門学校」から「人間総合科学大学鍼灸医療専門学校」に変更になりました。大学との連携を緊密にしながら、鍼灸領域での心身相関の概念を持った学生を育成するために教職員が頑張っています。また、本年度より「臨床専攻科」が新たにスタートし、免許取得後の独立・開業に必要な臨床技能の研鑽や、人間総合科学大学の卒業を目指して日々精進しています。

近況のご報告では、12月7日～11日に卒業認定実技試験および卒業認定見込筆記試験が実施されました。学生達は3年間で学んだ集大成として、教員にその成果をアピールしたようです。

人間総合科学大学に関する報告では、「大学院人間総合科学研究科心身健康科学専攻博士後期課程」において、日本初の博士（心身健康科学）の学位授与者が誕生する予定です。また通学制の「健康栄養科学専攻修士課程」が設置され、第1期生が入学いたしました。人間総合科学大学の健康栄養学科を卒業した学生達が、心身健康科学を健康栄養科学の立場から発展させてくれることを強く願っております。

だいぶ寒くなってきました。稲鍼会員の皆様、風邪などひかないよう、どうぞお身体を大切にしてください。

【副学科長挨拶】

東洋医療鍼灸学科 副学科長 早野 徳俊



今年は校名変更ならびに「臨床専攻科」の新設と、大きな変化を迎えました。世の中も大きな転換を迎えた一年となり、稲鍼会員の皆様におかれましてもご苦勞が絶えなかったと思われます。そんな中、皆様には日頃から新入学生のご紹介や、模擬患者役のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。急な要請であったり、ご無理を聞いて頂いたりと感謝に堪えません。

10月の早医祭では、毎年熱心に参加される方々や、遙々遠方からいらっしゃった方々と、愛校心を感じずにはいませんでした。今回、卒業生から3年生向けに就職ガイダンスとして開業までのエピソードを語っていただき、就職に対しての意識を早くに持ってもらおうと企画したり、臨床専攻科による催し物があつたりと、同窓生と在校生との関わりがより深まってくれることを願っております。

さて、そんな我が校も新年度入学募集についてこれまでになく苦戦しております。1人でも多くの入学希望者をと、重ねてのご協力を賜りたく存じます。患者として通われている方や医療職への道を考えている学生、手に職をと悩んでいる方が身近にいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さいますようお願い申し上げます。

政権交代や新型インフルエンザ、デフレと物騒な事件が続いておりますが、陰陽論を持ち出すわけではないですが、必ず良い変化が起こることでしょう。

皆様のご多幸ご健康をお祈り申し上げます。

平成 21 年度 稲鍼会総会議事録

日 時：平成 21 年 6 月 28 日（日）午後 1 時 30 分より

場 所：人間総合科学大学鍼灸医療専門学校 本館 2 階 2 年生教室

当日出席者：54 名

議 長：田中 牧夫

議 題

第一号議案

平成 20 年度事業報告および会計・監査報告

浅野幹事による平成 20 年度事業報告、会計鶴田氏による平成 20 年度会計報告、監査神部氏による平成 20 年度監査報告について、満場一致で承認された。

第二号議案

平成 21 年度事業計画案および予算案の件について

浅野幹事より平成 21 年度における事業計画案の報告、会計鶴田氏による平成 21 年度予算案について、満場一致で承認された。

第三号議案

校名変更について

町田監査より、今春から「人間総合科学大学鍼灸医療専門学校」と校名が変更になった経緯、目的などについての説明があり、総会参加者の理解が得られた。また、校名変更の後も、同窓会については「稲鍼会」の名称を継続することについて総会参加者の同意が得られた。

臨床専攻科の新設について

町田監査より、今年度から新設された「臨床専攻科」の授業内容や近況報告について説明がなされた。

心身健康シリーズについて

町田監査より、人間総合科学大学から出版された「心身健康シリーズ 6 巻」および「HAS」についての説明があり、総会参加者への購入をお願いした。

平成 20 年度稲鍼会賞の受賞学生について

平成 20 年度の稲鍼会賞を受賞した「小林勇人氏（第 38 期 I 部卒業生）」の紹介があり、稲鍼会役員会および稲鍼会員への受賞報告および感謝の挨拶が行われた。

来年度の新入生確保の協力依頼について

高橋会長、町田監査より、本校への入学生募集を強化するために、稲鍼会員の先生方への協力依頼があった。来年度の入学生募集に関して、受験生の紹介者には稲鍼会から御礼を贈呈することが役員会から提案され、満場一致で承認が得られた。

人間総合科学大学鍼灸医療専門学校稲鍼会

財産目録

平成21年3月31日 現在

(単位:円)

科目	
資産の部	
1)流動資産	
現金・預金	
普通預金 リそな銀行 西早稲田支店	11,398,831
定期預金 リそな銀行 西早稲田支店	10,000,000
立替金	117,675
流動資産合計	21,516,506
負債の部	
1)流動負債	
会費前受金(平成21年度生@15,000×39人)	585,000
預り金(学生自治会費,納付金)	585,000
未払金(講演会謝金等)	825,275
流動負債合計	1,995,275
正味財産	19,521,231

人間総合科学大学鍼灸医療専門学校稲鍼会

第34回 収支計算書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

(単位:円)

(収入の部)	決算額	内訳	備考	(支出の部)	決算額	内訳	備考
前期繰越金	19,798,278			諸経費	984,570		
会費収入	600,000	585,000	@15,000×39	通信費		222,400	往復はがき他
		15,000	@15,000×1	印刷製本費		303,425	会報他
卒業生対象公開講座	1,350,000		@50,000×27	会議費		125,940	飲料弁当他
受取利息収入	32,088		定期預金利息	交通費		238,760	総会交通費
雑収入	18,000		懇親会会費 等 (@1, 000)	手数料		3,800	振込手数料
会費前受金	585,000		@15,000×39	渉外費		83,000	お花他
				褒賞費		7,245	稲鍼会賞
				消耗品費		0	
				活動促進費	992,565		録画再生機他
				公開講座運営費	300,000		
				会費前受金	585,000		@15,000×39
				次期繰越金	19,521,231		
収入合計	22,383,366			支出の部	22,383,366		

人間総合科学大学鍼灸医療専門学校稲鍼会
平成21年度予算案
平成21年4月1日～平成22年3月31日

単位:円

(収入の部)	予算額	内訳	備考
前年度繰越金	19,521,231		
会費収入	600,000		H21生分(@15,000×40名)
受取利息収入	30,000		預金利息
公開講座会費	1,350,000		(@50,000×27名)
会費前受収入	900,000		H22生分(@15,000×60名)
合計	22,401,231		

(支出の部)	予算額	内訳	備考
諸経費	1,152,000		
通信費		245,000	
印刷製本費		268,000	
会議費		267,000	
交通費		260,000	
手数料		4,000	
渉外費		83,000	
褒賞費		15,000	
消耗品費		10,000	
活動促進費	300,000		
公開講座運営費	400,000		
予備費	100,000		
会費前受収入	900,000		H22生分(@15,000×60名)
次年度繰越金	19,549,231		
合計	22,401,231		

【編集部より】

1. 役員改選について

昨年の稲鍼会会報で立候補していただける先生を応募いたしました。立候補者がいなかったため、会則にのっとり、役員会で話し合わせ、総会で承認を得て、平成 21 年度役員が決定いたしました。これにより、幹事の鈴木盛夫先生が退任されることになりました。鈴木先生には、今まで稲鍼会を支えていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

2. 教員の人事異動について

人間総合科学大学鍼灸医療専門学校、東洋医療鍼灸学科において、人事異動がありましたので報告いたします。これまで副学科長であった鈴木盛夫先生が人間総合科学大学 健康栄養学科へ異動になりました。鈴木先生には非常勤講師として、引き続き臨床医学各論を担当して頂いております。また、二本松明先生が人間総合科学大学から本学専任教員として異動になりました。

3. 稲鍼会の活動について

今年度の稲鍼会総会での特別講演は、「妊産婦領域の鍼灸治療 マタニティーから産後ママ、ベビーのための治療」と題し、鈴木元先生（第 34 期 I 部卒業生）からご講演いただきました。学園祭は「鍼灸に必要なスポーツケア」と題し、山下貴士先生（第 32 期 I 部卒業生）にご講演いただきました。鈴木先生からは、主に妊産婦に対する鍼灸治療やアロマセラピーなどについて、開業の立場からの工夫や注意点などについてご講演賜りました。山下先生からは、アスレチックトレーナーの立場から、主にスポーツ領域において必要となる鍼灸やスポーツケアについての基本事項や注意点などについてご講演賜りました。

4. シュミット博士の講演会について

平成 21 年 7 月 24 日（金）、人間総合科学大学 東京サテライトにおいて神経生理学の世界的権威である「ロバート・F・シュミット博士（ドイツ ビュルツブルグ大学生理学研究所名誉教授）」の講演会が開催されました。本学では、これまでもシュミット先生の講演会を開催しており、今回もご多忙の中にも関わらず講演会の開催が実現しました。今回は「Pain-Mechanism for Protection or Punishment?（邦題：痛みはなぜあるのかー防御それとも罰か・・・?）」という演題名で、鍼灸師のみならずマニュアルセラピーに携わる人に必要な「痛み」のメカニズムや生物学的意義について貴重な講演をしていただくことができました。約 180 名の参加者にとって非常に有意義な時間となり、講演後も熱心な質疑応答が行われました。



シュミット博士講演会の風景



早医祭の風景



スペインでの鍼灸事情

はじめに

近年、スペインでは鍼灸を他の理学療法（代替・自然療法、指圧、カイロ、整骨、リフレクソロジー等）と包括して法制化しようとする動きがあり、バルセローナを抱えるカタルニア州が先鞭をつけたが、最高裁判所により国の権能に関わるものとされ、その施行にストップがかけられている。従って所謂、理学療法は依然として“野放し”の状態にあり、街には各種学校が乱立し、数ヶ月から1年程の修了コースで終了証、認定証（こちらではTítuloと呼ばれる）といったものが独自に発行され、学生はそれを錦の御旗として掲げ、自宅開業或いは診療所（Centro）を開設している。毎日全国で25万人もの患者が“通院”しているとされているも、実態は公式には把握されていない。当地医師会や大学医学部連盟等は自己の権益を守ろうと、現法律の下では、かかる理学療法は医師のみに許されているものとして無免許治療に異を唱えているものの、多勢に無勢の感は否めない。その中で、鍼灸は「鍼」という「特殊な道具」を使うことによる衛生、安全上の観点からと、医師自らが認める「医療行為」に類するものとしての扱いもあり、他の理学療法とは少し異なった見方をされている。2002年、かつて学んだカスティーリャ地方 Valladolid 大学の医学部教授が小生に発した“スペインでは鍼灸治療は医師のみが行える”との言葉は今でも耳から離れない。その場は思わず“自分は日本政府の鍼灸治療の免許を持っているが...”と応えたが、明確な反応はなかった。それ以降、今回の個人事業主（鍼灸師）就労許可を取得できるまで、細々と出張治療の慣らし運転をしてきた経験に基づき、現在のスペインでの鍼灸治療について簡略に記したいと思います。

1. 鍼灸患者

比較的富裕の中年層以降が多い。1時間 40～60 ユーロ（5000 円～8000 円位）が相場だが、スペインの医療は社会保険で全額カバー（日本みたい何割負担などとみみっちいことは言わないため）、医療に金を払うことには抵抗があり、この不景気の御時勢、余計な支出は抑えたいというのが庶民感情である。その代わり、病院では待ちの辛抱が肝要で、朝一番に受付をして夕方やっと診てもらえるという現状。手術の予約などは一年先が日常茶飯事で、抜け穴として救急外来に行くケースが増加している。（金持ちは民間の医療保険に加入し、社会保険非適用の病院へ行くので心配ご無用である）。鍼灸は両陣営からの痛み治療の駆け込み寺になっているともいえる。

2. 鍼に対する見方

当地で鍼治療といえばほぼ 100% 中国鍼である。カタルニア州で古くから治療に従事されているスペイン人の奥様を持つ日本人鍼灸師がお一人いる。もうお一人、マドリードに気功を取り入れた鍼治療を行っている日本人（奥様はスペイン人）がいるが、一般の人々は鍼といえば中国鍼を思い浮べることになる。小生、初診の際は、必ず密封した鍼を患者に示し、これは滅菌処理されていて一回限りの使用であるから感染の問題はないことを明

確にして、治療は効果が現われるまでに多少時間がかかるかも知れぬが、副作用がないので忍耐強く治療を受けてほしいと説明し、患者の同意を得た上で治療に入っている。同時に日本の国家資格制度についても説明し、その免許を有することを明示して、スペインであっても日本法の治療ガイドランスに則って治療を行うことを述べ、患者の信頼を得るように常に努めている。

3. 病症と治療

ストレスに起因する頭痛やめまい、頸椎症、膝痛、外反拇指等が多い。深刻なのは、最近増えてきている線維筋痛症である。西洋医学は抗炎症剤等の投与とリハビリで対応しているようだが、患者が予め代替医療と納得して鍼灸治療に望みをかけてくるケースがある。又、痩身、禁煙といったエステ感覚の問合せも多い。どちらも（小生の技術レベルでは）患者を満足させる鍼の効果はそう簡単には期待できず悩むことが多いが、生活様式の改善を併せ指導している。腰痛は飽食による太鼓腹からくる腰椎前湾が多く、鍼治療の後、時間をかけて腹式呼吸とスクワット（馬歩）で骨盤の後傾体操をしてもらう。息を一杯吐いても、たわわな腹はなかなか凹まないが、皆興味があるらしく一生懸命やる。現代社会では、時々、交感神経の緊張を解くことは大事で、気の流れと血流（血行）も良くなり、痛みも取れてくると説明すると納得してくれる。当地では、免疫力アップとか自然治癒力増強を謳った高価なヨーグルト、各種飲料水等が人気を博しており、楽して目的を達しようと辛い運動の類は敬遠したがる風潮も強く、時に東洋医学の理論的な動機付けの説明が必要となる。

4. 鍼は痛い？

スペイン人は、基本的に鍼治療は痛いものだが、治療のためなら我慢するとの変な認識が一般にあるようだ。小生は、「日本鍼は痛くないもの。鍼が痛くては、治療効果が上がらない。もし痛かったら痛いといってね」と、念を押してから開始する。患者は、治療中は眼を閉じて静かにしているのがほとんどだが、それでも治療後暫くしてから、あそこに打たれた鍼は一寸痛かったといわれ、ドキッとすることがある。患者が談笑の中でふと漏らす言葉は何なのか。一般的に楽天的で、享乐的でもあるスペイン人が、こんなに我慢強いのは鍼治療に対する先入観なのか。小生に対する遠慮なのか。そうではあるまい。ここに来る前に病院で数ヶ月に亘り施された X-RAY、CT、MRI や血液・尿検査、腫瘍マーカーといったおびただしい検査と、それに続く持続的な薬物投与に疲れ果てた後の院内リハビリ。それらに併行する未知の鍼治療。髪の毛ほどの鍼が与える軽い刺激なぞ眠気を催す、取るに足らないものと感じているのかもしれない。確実に言えることは、頭痛にせよ腰痛にせよ「痛み」(Dolor) が取れたと患者が自覚できるようになると、「鍼が痛い時は我慢する」と、哲学みたいなことを言いだすことである。小生にとって新しい発見であると同時に、己の精進不足を思い知ることとなる。

5. 東洋的なもの、鍼灸治療

スペインの食事時間は、昼はだいたい午後 2~4 時、晩は 9 時半~11 時過ぎで、肉料理が基本。朝食は基本的にコーヒーかビスケット、果物を軽く摂るくらいである。就寝時間を夜 12 時前後とすると、食べたものが全部脂肪になる感じで不健康極まりない。この為、東洋の国、特に日本の食文化には関心が深く、豆腐、豆乳、味噌、刺身、寿司等は人気

高い。コレステロールの低い健康食として注目されているが、未だ取っ付きにくいところがあるのか、価格が高いこともあり日常生活に必ずしも普及している訳ではない。これと同じことが東洋医学の延長にある鍼灸治療にもいえる。TVなどで時々、顔中に長い中国鍼を打った画像が解説と共に流される美容絡みの番組に関心が向くように、鍼灸治療を医療行為として見る患者は気の概念とか、経絡経穴にある程度の知識をもっているのも、こちらの説明の呑み込みも早い。特に仕事上のストレスに日夜晒されている人々は鍼を積極的に受け容れる。鍼による伝染・感染の恐れがないことと、施術者の資格（Quality）と技能を前もってきちんと説明すれば、こちらを全面的に信頼してくれる。インテリほどこの傾向が強いが、この種の人々は未だ少ない。一方、年配の女性（頭痛、まめいと膝痛が多い）は、理論は理論として一応置いて、大物なのか最初からドンと任せてくれるので治療し易い。寛解すると喜んでくれてチップまでくれようとする。鍼は医療行為だからとして、チップは固辞しているが、この辺が鍼治療に対するスペイン人の率直な庶民感覚なのかも知れない。

6. 我がまま人生と鍼

この春、変形性頸椎症状で、病院の検査で神経根症（Radiculopatía）と診断された患者（中年女性）から電話が入った。普段はカラー着用と消炎鎮痛剤を服用しているが、薬の量を減らしたいのと、好きな車の運転とダンスの運動による愁訴の誘発や増悪をなくしたいという。通常は服用量を増やすことが多いが、それも余り気が進まないのも鍼治療を受けたいと自分勝手な言い分であった。取り敢えず鍼についての説明をし、鍼治療の経験の有無を聞くと、昔一度だけ韓国の鍼を受けたことがあるとのことであった。神経根周辺の筋の緊張を緩める治療をして、オーバードーズにならぬようその日は浅い刺激とし、低周波を軽くかけて治療を終えた。このパターンを3～4回済ませた夏のある日の晩、地中海のリゾート地から患者の元気な声の電話があった。曰く「鍼をするようになってから、首の調子が良くなった。痛みと上肢のシビレもなくなった。薬も少なめにしているよ」と大変ご機嫌がいい。こちらもあつけにとられたが、「良かったね」と相槌を打った。ところが、それから1～2週間して約束のアポの日の治療。患者は唐突に、「先日の鍼を打ったところが痛くてしょうがない。症状も前より悪化したようだ。薬も増えている」と非難が始まった。小生が「この間は、多少良くなったとのことだったと思うが」と問いかけると、「その時はそうだったかも知れぬが、今は痛みが強くなっている」と患部を指で示す。これでは満足な治療が出来ないので、「本日は治療は止めて、暫く様子を見よう」と水を向けると、「そうしてくれ」と患者も応じた。そのあと相手が落着いてから問い直すと、休みの間、北アフリカへ旅行に行ったという。「ラクダから落ちなかったか」との小生の変化球に、それはなかったと一瞬笑顔が返ってきたので、患者宅を辞去した。帰りはさすがに一抔の寂しさが漂ったが、それでよかったかも知れぬ。後日、紹介してくれた友人と話す機会があり、患者は古くより躁うつ病に悩んでいるとの事を知った。スペインが日本と決定的に違うのは、一にも二にも人生を楽しもうというのが基本。健康に良からうが悪からうが、美味しいものは美味しい、楽しいことは楽しいというのが「First Priority」。でもやはり肥満は見栄が悪いし、心筋梗塞は怖いからコレステロールと血圧は下げなければとマスコミに扇動されて大豆を食べる。でもやはりお肉が大好きだし、甘い物の誘惑には勝てない。そして後悔は多分しない。痛みは丸薬で緩和すればいい。でも副作用が怖い。東洋医学は西洋医学に比べ体に優しいことは理解しているが、ステロイド薬と違い速効性に欠け、明日

の招待された結婚式には間に合わぬ代物と捉えている節があるが、ファンは着実に増えてきている。

7. 誇示と鍼

近年、スペイン女性の胸が大きくなっている。金髪も増えてきた。全部とはいわぬが、その多くは豊胸手術と毛を染めているのである。訳知りの男性達は、豊胸で使うシリコンに絡めて彼女たちを「シリコーナ」と茶化している。スペイン女性は、本来は北部の一部を除外して大多数が栗色か黒髪であった筈。少なくとも小生の学生時代の 1970 年代まではそうであった。それが最近、あっちを見てもこっちを見ても胸を大きく開け、ホレ見ろといった女性、金髪染めの女性が街に氾濫している。何故分かるかという（よく観察しているなといわれても困るが）、胸元は重力でも下に垂れない大きな割れ目がくっきりとしているのと、金髪は頭頂部、百会辺りに生えてきた黒髪がコロナのように丸く浮き出ているから直に判別できる。つまり自己を人工的に誇示しているのだが、決して恥ずかしいことではないようだ。当地スペインはヨーロッパ一番の美容整形手術大国なのである。男性の誇示は権力、財力、精力だが、三番目は庶民でも可能であり年齢は関係ないようだ。マドリッドでは女性の肥満解消と男性力増強の二点は、人間が見栄を張るという観点からも根強い需要があることは事実である。小生には、未だ斯かる患者から援助来たれの要請の電話がかかってこない。宣伝はしていないが、今後の展開を見守りたい。

8. 癒しと鍼

スペインでの鍼治療開始以来、常に悩む問題。それは、前揉、後揉と指圧、マッサージの境を如何にするかということである。痛みがある局部を擦ったり、押したり、揉んであげると、皆一様に気持ちがいいという。まさに癒しの部分だ。鍼治療は「医療行為」だと主張し省いては、コミュニケーションにも支障が生じるというもの。かつて大名人が、裏街道も存在するといわれたのを聞いたことがある。患者の安堵感からくる信頼感が醸成できなくて、どうして治療が捗るのかとの思いもある。バランスを如何に取るかということであろう。治療の後で、町田先生から授かった頭頸部の手技を行うようにしているが、殆どの患者が、「目がすっきりした、頭が覚めた」といって感謝してくれる。このような手技をかつて受けたことがないらしい。これは小生から大事な患者さんへの個人的贈り物として、治療状況と相手を見極めなら行っている。この喜びを確実に超える鍼治療をスペイン人の患者にしてあげたいと、いつも思っている。

【卒業生からの報告 2】

渡邊 雄介 先生（第34期I部卒業生）



初冬の折、いかがお過ごしでしょうか。日本の社会、経済の歯車が狂っている今、一人ひとりが地道に一步一步進んで行く事が大切なのかもしれません。

卒業して整骨院に就職し、鍼灸マッサージ院を二店勤め、そこで患者様→お客様へと心変わりをしていました。実費を頂く治療院では、お客様の話をよく聞いて理解し、治療し、そして代金を頂く。お互いが対等のビジネスパートナーとしての関係が得られる。保険治療には保険治療の良さが、実費治療には実費治療の良さがああります。そして、私は後者を選びました。

後日ある方から、「商いは不景気の時にやった方が良い」と同時に、「仕事とは死事、それくらい大変な事」と伺いました。私も去る7月20日の「海の日」に、念願の夢であった当院『雄心館治療院』を開業することができました。今現在は目立った宣伝はしていませんが、今年中にホームページが完成する予定です。地域の方々に助けて頂きながら、地域社会に還元出来るよう経営努力していきます。稲鍼会員の先生方、ご指導、ご鞭撻を賜れますよう、よろしくお願い申し上げます。

【編集後記】

稲鍼会事務局長 町田雅秀



稲鍼会会員の皆様、お元気でご活躍の事と思います。今年も皆様のご協力で、稲鍼会報を発行することができ、有り難うございました。

今回の会報では、海外で活躍する望月先生の記事が印象的です。望月先生は卒業後、本校の臨床施設で臨床研修をされ、その後スペインと日本を幾度となく往復し、スペインでの開業準備をされ、入学以来抱いていた夢がやっと実現しました。その努力と情熱には、年齢を超越したものを感じ、あきらめない気持ちの大切さを再認識しました。

最近では、卒業後海外留学する同窓生も一時期より減少しましたが、NATA（National Athletic Trainers' Association[全米アスレティック・トレーナーズ協会]）が認定する公認トレーナーの資格を取得した同窓生や、アメリカでカイロプラクティックの資格を取得した同窓生がいます。やはり、共通することは「あきらめない気持ち」です。

学校の近況としましては、今年は学校名が変わって初めての年でありましたが、お陰様で41期生を迎える事ができ、来年には42期生を迎える事となります。さらに、本年より付帯教育として臨床専攻科の1期生を迎え、臨床教育を始めました。

稲鍼会会員の皆様へ「入学希望者ご紹介」のお願い、皆様からのご紹介をお待ちしております。ご家族、ご親戚、知人、友人、従業員等、はり師・きゅう師になりたい方がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。また、併せて皆様の近況等もお知らせ頂けましたらと思っております。

天候の変化、政治の変化等々、種々のものが変化する昨今ですが、皆様方には変化なくご健勝とご多幸、さらにご活躍を祈念申し上げます。

発行人：稲鍼会会長 高橋 次雄

稲鍼会会報：平成 21 年度号 平成 21 年 12 月発行

稲鍼会事務局：人間総合科学大学鍼灸医療専門学校

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-18-4

TEL 03-(3202)-2101 FAX 03-(3202)-2103

人間総合科学大学鍼灸医療専門学校ホームページアドレス

URL：<http://www.waseda.t.human.ac.jp/toushinkai/index.html>

E-mail：amwaseda@human.ac.jp